



文化財保護  
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書21

Hōjō  
鳥取県東伯郡北条町

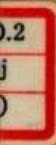
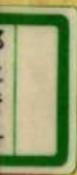


Chōnai  
町内遺跡発掘調査報告書

第 6 集

1997. 3

北条町教育委員会



鳥取県東伯郡北条町

町内遺跡発掘調査報告書

第 6 集

1997. 3

北条町教育委員会

## 序 文

今日、我が国は経済発展が進み、経済的ゆとりの獲得という戦後からの目標を達成しつつある中で、新たな生活目標として文化水準の向上が求められるようになってきております。この流れにおいて地域の歴史、文化等の理解、そして文化意識向上の礎となる文化財を保護、解明していく立場として、本町においても日々努力しているところであります。

北条町は、鳥取県中部を流れる天神川の下流部西岸に位置する総面積21km<sup>2</sup>の小さな町ですが、北条町遺跡分布図によりますと丘陵部を中心に600件もの遺跡が存在し、その分布密度は県下一となっております。しかしながら、現在も未踏査区域が広範囲に及ぶため、遺跡件数はその倍になるものと思われ、この地域の文化水準向上に直結する豊富な資源を地域文化に生かしていくことが私たちの責務であると考えております。

今回の調査は、北条町北尾、鳥地内丘陵部一帯で行われる県営鳥地区一般農道整備事業並びに土下字西張坪で行われる北条無線基地局建設工事に伴い、工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であり、北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ地元関係者と綿密な連絡を取り合い協議を進めてきました。

調査にあたっては鳥取県埋蔵文化財センターのご指導をはじめ、地元作業員、その他調査関係者各位のご理解、ご協力をいただきました。その結果、鳥苧山遺跡の発見という成果を得るに至り、紙面からではありますが、深く感謝申し上げる次第であります。

これを契機としまして、本町の文化財保護に一層努力を重ねてまいる所存でありますので、今後とも関係各位のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

1997（平成9）年3月

鳥取県東伯郡北条町教育委員会  
教育長 吉田俊夫

## 例 言

- 1 本報告書は、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が、平成8年度に国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
- 2 今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町烏字苅山、岡、北尾字金部、大日、天王山、岸佛、宮谷、前防、釜谷、そして土下字西張坪でトレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
- 3 本報告書の執筆・編集は、調査員の討議のもと、清水、中原が行った。
- 4 本報告書に記載した遺構の実測図、図面作成、写真撮影及び遺物の実測、写真撮影、浄書は作業員の協力のもと、清水、中原、岸田が行った。
- 5 遺物番号は、本文・挿図・図版にわたって同じ番号を使用した。
- 6 図中の方位は、すべて磁北を示している。
- 7 出土遺物、実測図、写真は、北条町教育委員会が保管している。

## 本文目次

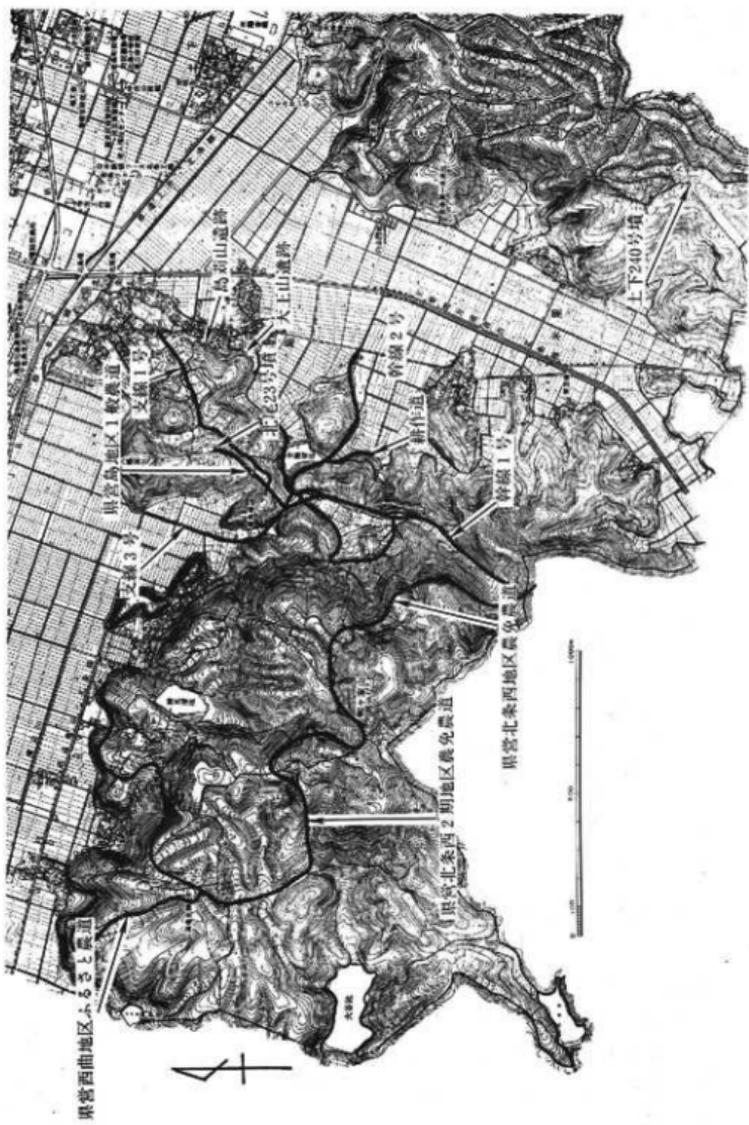
第1章	調査に至る経過	1
第2章	位置と環境	3
第3章	調査の概要	8
1	北尾、島地区試掘調査	8
2	北尾、島地区出土遺物一覧表	11
3	土下地区試掘調査	13
4	土下地区出土遺物一覧表	13
第4章	まとめにかえて	15

## 挿図目次

挿図1	翔ヶ家山周辺農道整備事業路線計画図	
挿図2	北条町内遺跡分布図	2
挿図3	土下地区トレンチ配置図	4
挿図4～5	北尾、島地区トレンチ配置図①②	5～7
挿図6～7	北尾、島地区トレンチ断面図①②	10～11
挿図8	北尾、島地区出土遺物	12
挿図9	土下地区トレンチ断面図	14
	・報告書抄録	16

## 図版目次

図版1	県営島地区一般農道整備事業・島、北尾地区遠景・島、北尾地区T13断面・島、北尾地区T3-1・島、北尾地区T3-1遺物出土状況
図版2	島、北尾地区T11・島、北尾地区T12-2・土下地区T1
図版3	出土遺物



挿圖 1 柳ヶ家山周辺道路整備事業計画図

## 第1章 調査に至る経過

本調査は、北条町鳥地区西部、北尾地内南部を占める丘陵地帯に、県営鳥地区一般農道整備事業に含まれる一路線である支線一号を設置することに伴い、工事主体者である鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課と本工事予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて工事との調整を図るべく協議を行った結果、本工事予定地内には周知の遺跡が見られないものの「北条町内遺跡分布図」に示されるように天王山遺跡が近接することが確認されているためトレンチによる試掘調査を実施することになった。

また、なだらかな丘陵を呈する土下山の北西に日本海をのぞむ尾根上に位置し、果樹園畑地として土地利用されている土下字西張坪においても、北条無線線地局建設工事に伴い、工事主体者である中国セルラー電話株式会社と同様の協議を行った結果、「北条町内遺跡分布図」によると当地に土下240号墳の存在が示されており、また開墾前に古墳が存在していたとの土地所有者の証言からトレンチによる試掘調査を実施することになった。

そこで、文化財保護の立場から双方の事業において工事施工予定時期等と発掘予定箇所そして調査体制等を考慮しながら調整を図るよう互いに確認しあつた上で、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会とも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し、北条町鳥字苜山、岡、北尾字金部、大日、天王山、岸佛、宮谷、前防、釜谷、そして土下字西張坪を平成8年8月から9月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

### 平成8年度調査体制

調査主体 北条町教育委員会

教育長 吉田 俊夫

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

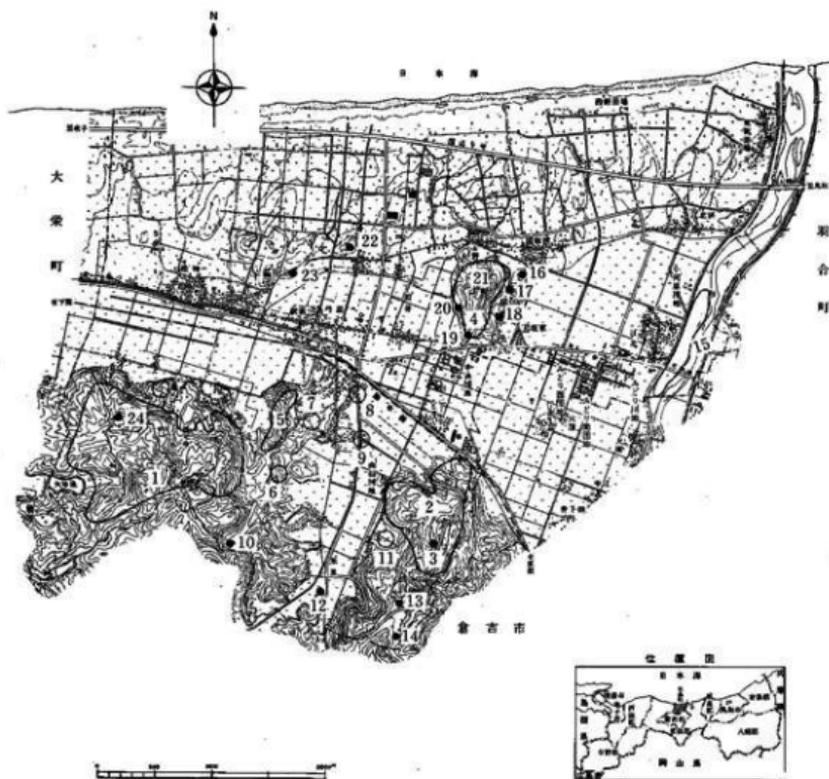
調査担当 清水 直樹 (担当、教育課社会教育係主事)

中原由香里

文化財保護委員 松本達之・宇田川 宏・西村勝義・日置兼左エ門・前田明範

事務指導 鳥取県教育委員会文化課

事務担当 樋口和夫 (教育課社会教育係係長兼社会教育主事)



- |            |            |                  |
|------------|------------|------------------|
| 1. 曲古墳群    | 2. 土下古墳群   | 3. やすみ塚(土下213号墳) |
| 4. 茶臼山古墳群  | 5. 北尾古墳群   | 6. 島古墳群          |
| 7. 島荻山遺跡   | 8. 北尾遺跡    | 9. 島遺跡           |
| 10. 曲226号墳 | 11. 船渡遺跡   | 12. 米里銅鉾出土地      |
| 13. 米里第1遺跡 | 14. 米里第2遺跡 | 15. 天神川河床遺跡      |
| 16. 宇ノ塚遺跡  | 17. 殿屋敷遺跡  | 18. 馬場遺跡         |
| 19. 用露鼻遺跡  | 20. 長畑遺跡   | 21. 茶臼山要害        |
| 22. 中浜遺跡   | 23. 下神1号墳  | 24. 曲宮ノ前遺跡       |

辨圖2 北桑町内遺跡分布圖

## 第2章 位置と環境

北条町は、鳥取県の中央部を流れる県内3大河川の1つ、天神川の下流域西岸に位置する東西約5.6km、南北約4.7km、総面積20.99km<sup>2</sup>の小さな町で、東は天神川を隔てて羽合町西は大栄町、南は倉吉市に接し、北には日本海がひろがっている。

本町を地理的見地にとってみると北部日本海側には本町をまたいで大栄町から羽合町まで東西12km、南北1.5kmの範囲に広がる北条砂丘、中央部には豊かな水田地帯を呈する北条平野、南部は標高70mの土下山及び標高171mの蜘蛛ヶ家山に代表される丘陵地帯の3地域に分けることができる。

北条砂丘は、安山岩を基盤として約一万年前の大山噴火で堆積した火山灰、そして古砂丘が伏在し、その上に古代遺物の包含層で砂丘層の形成時期を決定する準地層のクロズナ層があり、更に現在の新砂丘で覆われ形成されている。

北条平野は、天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で高低差が少なく平坦な地域であり、古くから北条田圃ともいわれた穀倉地帯の姿が今日にも見られる。

土下山、蜘蛛ヶ家山そして茶白山に代表される丘陵地帯はなだらかな原野で県下有数の古墳密集地として知られており、藩政時代は周辺村々の所有する入会採草場が入り組んでいたが、明治以降の桑園化、近年における樹園地化によりこれらの古墳は破壊され、当時の様子を忠実に解明するには困難を極める状況となっている。

本町の遺跡分布状況を砂丘地、平野部、丘陵地の3地域別に見てみることにする。

砂丘地では、隣町の羽合町から全国的に有名な古墳時代の砂丘遺跡、長瀬高浜遺跡が発見されているが、本町からは江北浜北野神社付近の河川工事の際に土師器、須恵器のほか土馬、銅鏡、鍔片など貴重な遺物が砂丘地の小丘部で確認されている。また、北条砂丘西寄りに位置する下神三輪山の採砂場からは弥生式土器、土師器片が出土していることから、砂丘地は弥生時代から古墳時代にかけて人々の生活の場であったことがうかがえる。

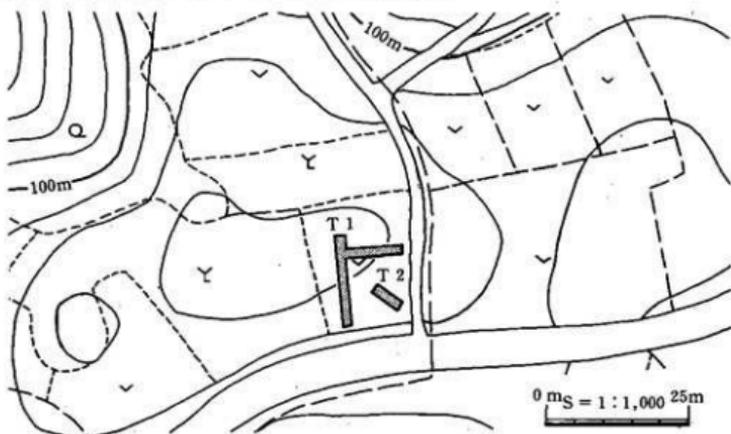
平野部においては、縄文時代前期から晩期にかけての鳥縄文遺跡、米里船渡遺跡がみられる。鳥縄文遺跡は昭和27年(1952)、北条川の排水機能を高めるため河川改修工事を行った際、縄文時代前期から晩期にまたがる土器をはじめ、黒曜石の石鏃、石鎌などの石器ニホンシカ、イノシシを主とした動物骨格片が発見されている。次いで昭和58年(1983)、当地において災害復旧工事に伴う発掘調査を行ったところ、縄文土器の他に丸木船、縄文中期のヤマトシジミを中心とした上層、縄文前期のマガキ、ハマグリ、イソシジミを中心とした下層の2層に分けられる貝塚が発見されていることから、当時の生活は狩猟及び漁業によって営まれていたことが容易に想像できる。また、米里船渡遺跡では水田下より、

ひきりうす、大足などの木器をはじめとして、住居の用材とみられる木製品、また周辺の畑地からは縄文土器片が検出されている。平野部と丘陵部の境界にあたる地域に位置する島、船渡の両地区において漁業、猟狩が当時主な生活手段であったことは、貝塚、丸木船の存在のほか、北条平野が当時、縄文海進によってラグーンが形成されており、このラグーンに面した湖岸に当地域が位置していた事実からもあてはめることができよう。

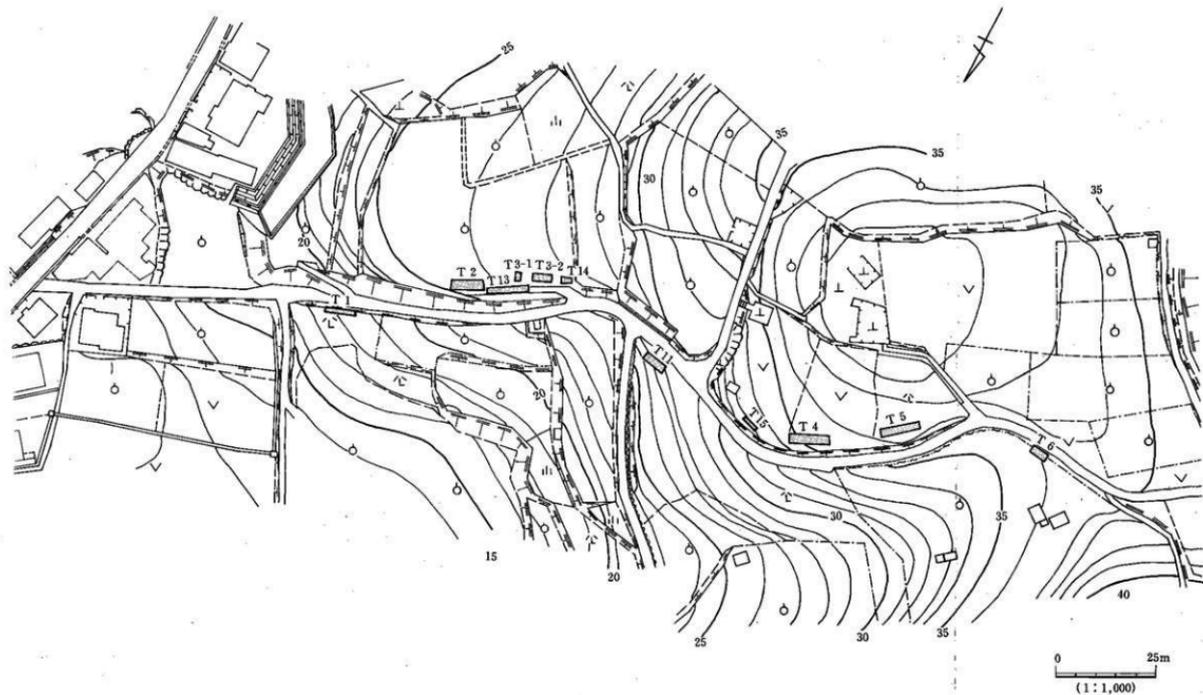
また、北条平野全域にわたって糸里遺溝の埋没が確認されており、四ノ坪、大坪等の数詞坪付地名が残っていることから、今日に見られる大水田地帯の姿は奈良時代から形成されていたと考えられる。

丘陵部には、遺跡分布図に示されるように、茶臼山を中心に位置する茶臼山古墳群（約55基）、土下山に位置する土下古墳群（約270基）、蜘蛛ヶ家山の周辺に位置する曲古墳群（約230基）、北尾古墳群（約25基）、島古墳群（約6基）などが存在し、古墳の密集地として県下有数の地域である。これら丘陵部に位置する古墳の年代は出土遺物から古墳時代に入ってからのものであり、その多くは円墳であるが前方後円墳、方墳もみられる。その中でも、土下古墳群に含まれる210号墳及び213号墳から全国的にも貴重な鹿埴輪、鹿の子模様の入った人物埴輪が出土したことから、当地の古墳時代における繁栄の姿がうかがえる。また、ここより200m離れて終末期の横穴石室が露見しており魚の繖刺も確認されている。

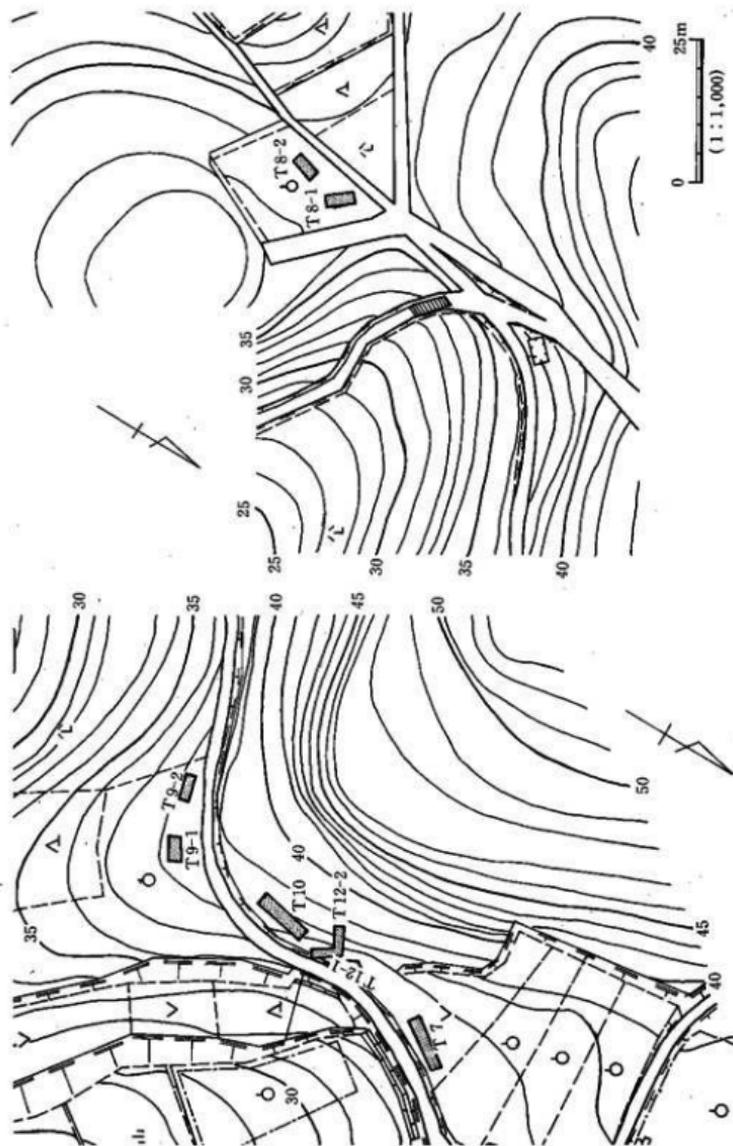
今回調査を行った北尾、米里の両区域は、上記の地域区分ではいずれも丘陵部に位置し、北尾は天王山遺跡が近接、米里は周知の古墳（240号墳）ということで地域の歴史事実を解明するうえで重要な手がかりになるものと思われる。



挿図3 土下地区トレンチ配置図



挿図4 北尾、鳥地区トレンチ配置図①



挿図5 北尾、高地区トレンチ配置図②

### 第3章 調査の概要

#### 1 北尾、鳥地区試掘調査（鳥刈山遺跡）

この調査は、北条町北尾字金部から北尾字釜谷までの農道を、県営鳥地区一般農道整備事業に含まれる支線1号整備事業として道路幅拡張などが計画されているため、現在の道路沿いのそれぞれの地形に合わせて幅0.5～2m、長さ1.85～10.5mのトレンチ（T）を15本（T1～15 199.87㎡）設定し、遺路の有無とその範囲の確認を行った。

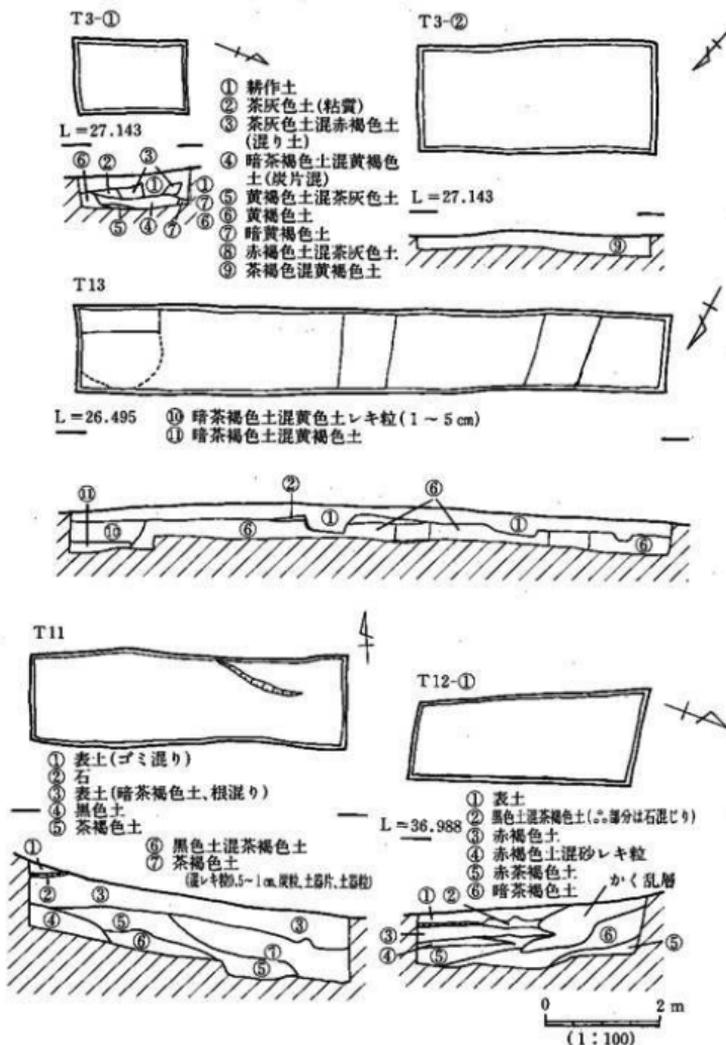
その結果、北条町鳥字刈山の柿畑に設定したT3-1からはビット、T13からは住居跡の断面が検出された。（鳥刈山遺跡）その他のトレンチから遺構は検出されなかった。

各トレンチの発掘調査の結果は各トレンチ調査一覧表（P8～9）及び各トレンチ実測図のとおりである。

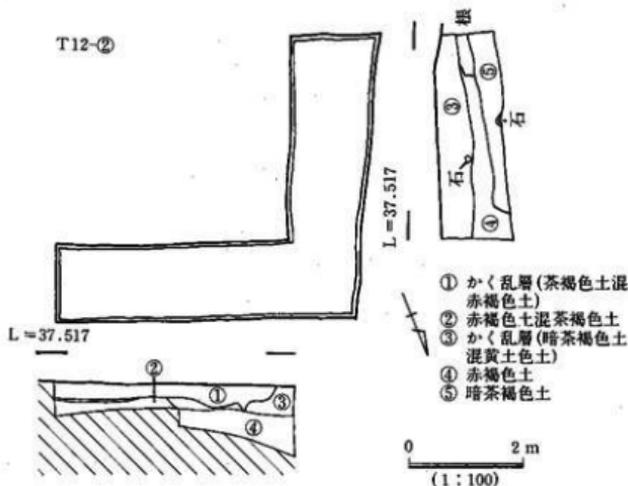
〈各トレンチ調査状況一覧表〉

トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ(cm)	面積(m <sup>2</sup> )	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T1			25	8 (1×8)	①茶褐色土	土師器片2、須恵器片1	
T2			75～110	15.3 (3.5×1.8)	①茶褐色土混黄褐色土 ②暗茶褐色土混暗黄褐色土	土師器片5～6個出土 須恵器片2	
T3①	6	1	70	2.22 (1.2×1.85)	①耕作土 ②茶灰色土(粘質) ③茶灰色土混赤褐色土(まざり土) ④暗茶灰色土混黄褐色土(炭片混) ⑤黄褐色土混茶灰色土 ⑥黄褐色土 ⑦暗黄褐色土 ⑧赤褐色土混茶灰色土	土師器甕口縁部 完形1点 土師器片多数 ビット1 住居跡	
T3②	6		22～40	7.38 (1.8×4.1)	①茶褐色混黄褐色土	土師器片5～6個出土	
T4			8～80	20 (2×10)	①表土 ②茶褐色土 ③暗茶褐色土(固い粘土質) ④黄褐色土混茶褐色土		
T5			35～50	18 (1.8×10)	①表土		
T6			50	8 (4×2)	①耕作土 ②暗茶褐色土		
T7			75～88	20 (2×10)	①表土 ②赤色土混砂粉(0.5～3mm大) ③灰緑色土(粘土質)	土師器片2個	

T 8①			50~ 70	10 (5×2)	①茶褐色土 (耕作土) ②黄褐色土 (地山)	
T 8②			53~ 73	10 (5×2)	①茶褐色土 (耕作土) ②黄褐色土 (地山)	
T 9①			14~ 27	10 (2×5)	①赤色土混砂粒 (0.5~5mm大)	
T 9②			15~ 28	9 (1.8×5)	①赤色土混砂粒 (0.5~5mm大)	
T 10			35~ 63	20 (2×10)	①赤色土混砂粒 (0.5~3mm大)	
T 11	6	2	103~ 140	11.2 (2×5.6)	①表土 (ゴミ混り) ②石 ③表土 (暗茶褐色土、根混り) ④黒色土 ⑤茶褐色土 (土器片混り) ⑥黒色土混茶褐色土 ⑦茶褐色土 (混レキ粒0.5~1cm 炭粒土器片・土器粒)	弥生土器口縁1つ 底部1つ 土師器片多数
T 12①	6		73~ 106	5.6 (4×1.4)	①表土 ②黒色土混茶褐色土 (品部分は石混り) ③赤褐色土 ④赤褐色土混砂レキ粒 ⑤赤茶褐色土 ⑥暗茶褐色土	すり石1個 須恵器片2個
T 12②	7	2	45~ 125	13.88 (4.2×1.4 +5×1.6)	①かく乱層 (茶褐色土混黄褐色土) ②赤褐色土混茶褐色土 ③かく乱層 (暗茶褐色土混黄褐色土) ④赤褐色土 ⑤暗茶褐色土	
T 13	6	1	55~ 80	5.25 (10.5×0.5)	①耕作土 (茶褐色土) ②茶灰色土 ③黄褐色土 (地山) ④暗茶褐色土混黄褐色土レキ粒 (1~3cm) ⑤暗茶褐色土混黄褐色土	土師器片15個
T 14			53~ 80	3.04 (0.8×3.8)	①暗茶褐色土 ②暗茶褐色土混黄褐色土 ③黄褐色土混茶褐色土	
T 15			7~ 27	3 (1.5×1.2)	①表土 (茶褐色土)	土師器片5個 須恵器片5個



押図6 北尾、島地区トレンチ平面断面図(その1)



挿図7 北尾、島地区トレンチ平面断面図 (その2)

2 北尾・島地区出土遺物一覧表

遺物番号	名称	出土場所	断面図	量量 (cm)	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土		
1	土師器・カメ	T3	①	8	3	復口径 13.8cm	弥生後期	口縁部は厚めでやや外反り気味に外傾し、肩部は厚く丸い。長めの頸部がしっかりしており、体部とちゅうで薄くなる。	口縁部外面は頸凹線を施す。頸部から体部にかけての外側、口縁部から頸部にかけての内面はナデ。体部内面は、右方向へのケズリが入る。	良好	淡茶褐色土	1~3mmの石粒含む
2	土師器 器台上部	T3	①	8	3	復口径 19.6	古墳前期初期	口縁部は外側に外反しており、肩部は角はり平坦である。頸部は太めと思われる。	口縁部内面および頸部の外面はナデ。口縁部外面は、上部約4条下部4条の波状文を施す。	良好	茶褐色土に赤色の彩色層 (表裏両面)が見られる。	1mm未満の砂粒と1~3mmの石粒含む
3	土師器・カメ	T3	①	8	3	復口径 14.4	古墳前期初期	口縁部はやや外傾して外側に囲っている復口径口縁。肩部は丸味がある。	口縁部内面および頸部の外面ナデ。口縁部外面に約13条の波状文を施す。	良好	淡茶褐色土	2mm前後の砂粒含む
4	九段生土器・カメ	T11		8	3	復口径 17.6	弥生前期	口縁部は厚く、内傾しており、頸凹線を施している。上下の頸部は丸味を帯びている。頸部から体部まで緩やかに膨み、器厚は薄い。	口縁部内面ナデ。口縁部外面頸凹線、内面頸部左上方から右下方へ向かってのナメハケ目。内面肩部下方から上方へ向かってのヘラケズリ。外面体部タテ・ハメ目	良好	淡黄茶色	1~2mmの砂粒含む
5	土師器・底部	T11		8	3	底部径 長径6 短径5.5	不明	底部はやや楕円形を呈しており、少し上げ底気味。肩部は丸みを帯び、少しくびれた上、直線的に斜め上方へ延びる。やや厚めの器厚	内外面ナデ	良好	外面は茶褐色 底部内外面は黒色	1mm前後の砂粒含む

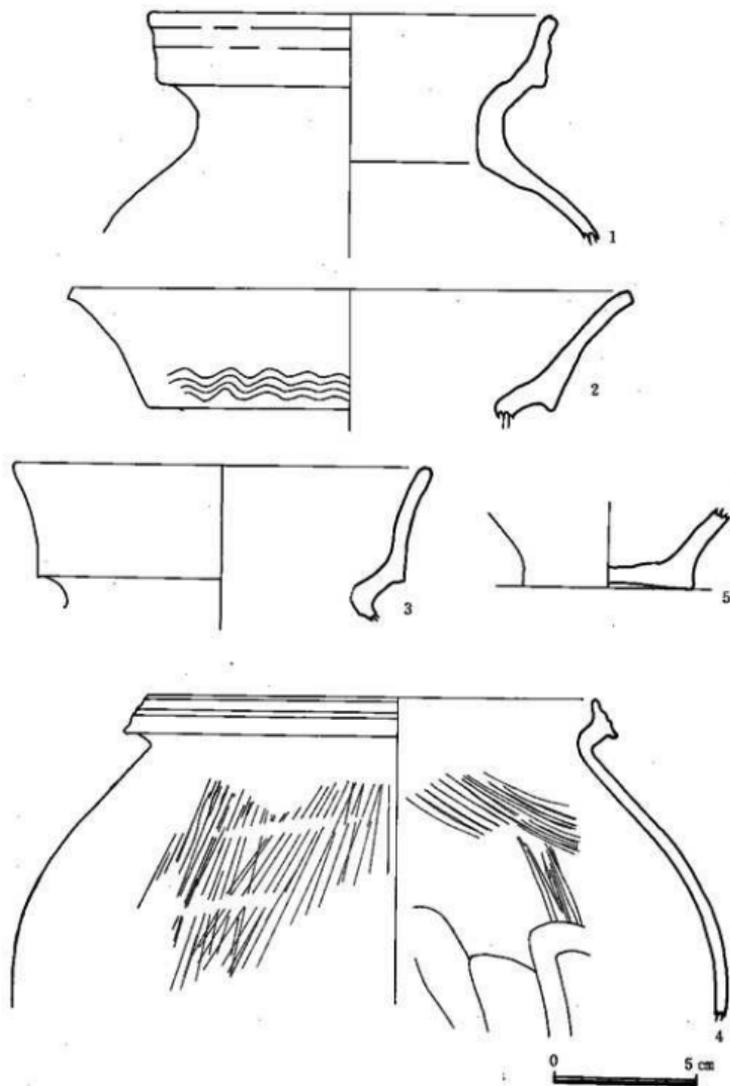


插图8 北尾、高地区出土遗物

### 3 土下地区試掘調査（土下240号墳）

この調査は、北西に日本海を望む土下山の尾根上に位置する北条町土下字西張坪に計画された北条無線基地局建設工事に伴う試掘調査で幅1.5m、長さ5.1～16mのトレンチを2本設定し、遺跡の有無等の確認を行った。その結果T1・T2を覆い囲む形で周溝が検出された。

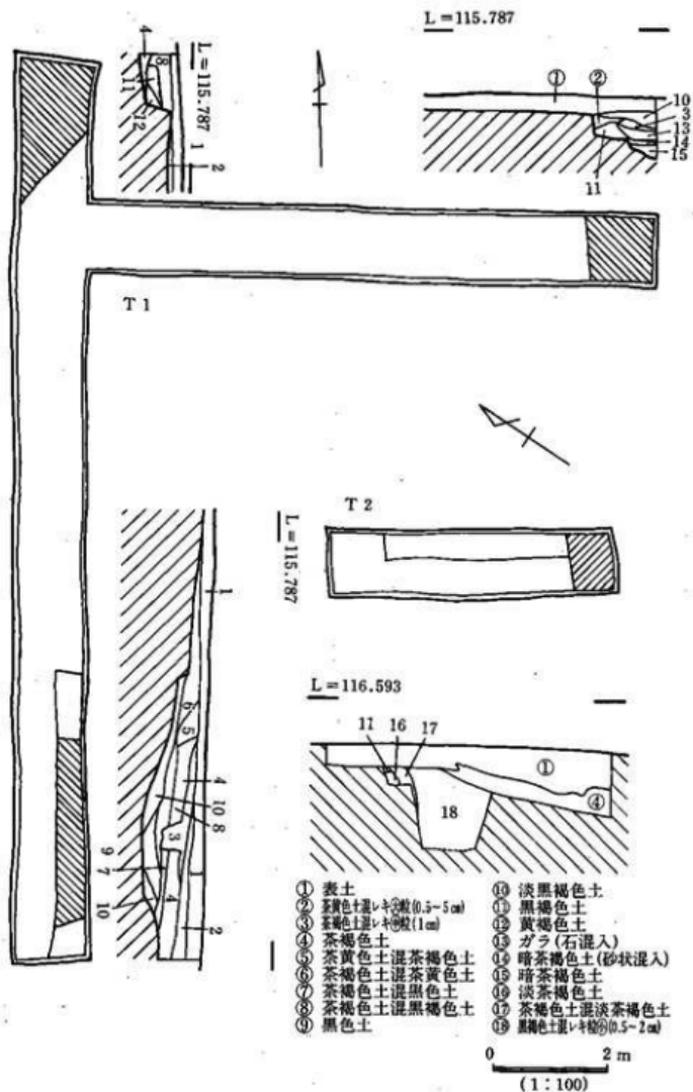
トレンチの発掘調査の結果は、各トレンチ調査一覧表及びトレンチ実測図のとおりである。

〈各トレンチ調査状況一覧表〉

トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ (cm)	面積 (m <sup>2</sup> )	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
1	9	2	18～110	34 (10×1+16×1.5)	①表土 ②茶黄色土混レキ②粒 (0.5～5 cm) ③茶褐色土混レキ②粒 (1 cm) ④茶褐色土 ⑤茶黄色土混茶褐色土 ⑥茶褐色土混茶黄色土 ⑦茶褐色土混黒色土 ⑧茶褐色土混黒褐色土 ⑨黒色土 ⑩淡黒褐色土 ⑪黒褐色土 ⑫黄褐色土 ⑬ガラ (石混入) ⑭暗茶褐色土 (砂状混入) ⑮暗茶褐色土	土師器片 1	
2	9		35～185	6.6 (1.3×5.1)	①表土 ②茶褐色土 ③黒褐色土 ④淡茶褐色土 ⑤茶褐色土混淡茶褐色土 ⑥黒褐色土混レキ粒② (0.5～2 cm)		

### 4 出土遺物一覧表

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量 (cm)	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土	
1	土師器片	T1	3	面積約1cm四方	不明		掘削範囲が施されている。			良好	淡黄褐色	約2mmの砂粒含む



挿図9 土下地区トレンチ平面断面図

## 第4章 まとめにかえて

平成8年度は、県営高地区一般農道整備事業及び北条無線基地局建設工事に伴う試掘調査において、北尾・島地区15本、土下地区2本の計17本のトレンチを設定し、遺跡の有無や範囲を確認した。

北尾・島地区では、これまで遺物散布地として北条町内遺跡分布図に示めされる天王山遺跡近接して位置する高字刈山に設定したT3-1よりピット、T13より住居跡と思われる落ち込みが断面によって検出された。またT3-1、T13では多数の土師器片が出土している。T11では多量の土師器片が出土したが、断面の状況、丘陵上に天王山遺跡が存在することから流れ込みと推測される。T12は石室らしき列石が露出していたことから設定し調査を行ったが、人為的な石組はなされておらず周辺に遺溝も検出されなかった。さらに土中からは家屋の廃材が確認されたことから、列石は石室ではなく廃材と共に放置されたものと思われる。T1～T3、T15の各トレンチについては遺物が少数出土したが遺構が検出されなかったため、T11と同等に流れ込みによるものと思われるので遺跡はないものとする。

土下字西張坪地区では、T1、T2から周知の古墳として北条町内遺跡分布図に示される土下240号墳のものと思われる周溝が確認された。しかしながら畑地として土地利用されているため、地山を削ってトレンチャーが南北に向かって無数に入っており、周溝が攪乱されている部分が多く見られた。また、周溝の様子から主体部が存在すると推測される場所の確認を行ったが、主体部は検出するに至らなかった。遺物については土師器片を1点のみ検出しただけであった。

今回の試掘調査は、道路予定地内が大部分を示めたため、限られた範囲での調査となったが、土中の状況が不明となっていた天王山遺跡の範囲内において住居跡を発見するに至り、新たに高字刈山周辺を天王山遺跡と分別し、高刈山遺跡とした。高刈山遺跡、土下240号墳共に未だ全体像がつかめていないため、今後の発掘調査の成果が期待される。

報告書抄録

ふりがな	ちょうないせきほくつちようまほうこくしよだい6しよう (しまかりやまいせき、ほした240ごうふん)						
書名	町内遺跡発掘調査報告書第6集 (高刈山遺跡、土下240号墳)						
副書名							
巻次	第6集						
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号	21						
編著者名	清水直樹 中原由香里						
編集機関	北条町教育委員会						
所在地	〒689-21 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL0858-36-3111						
発行年月日	西暦1997年3月19日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
高刈山遺跡 シタカヤマノイセキ	北条町鳥字 刈山	31366	35°28' 35"	133°48' 51"	199608 ~199609	199.87m <sup>2</sup>	県営高地区一般農道整備事業に伴う事前調査
土下240号墳 ウシタカ240ゴウバツ	北条町土下 字西張坪	31366	35°27' 30"	133°49' 16"	199608 ~199609	40.6m <sup>2</sup>	北条無線基地局建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高刈山遺跡	住居跡等		竪穴住居跡約2棟	カメ 4つ			
土下240号墳	古墳		周溝	土師器片 1つ			

# 圖 版



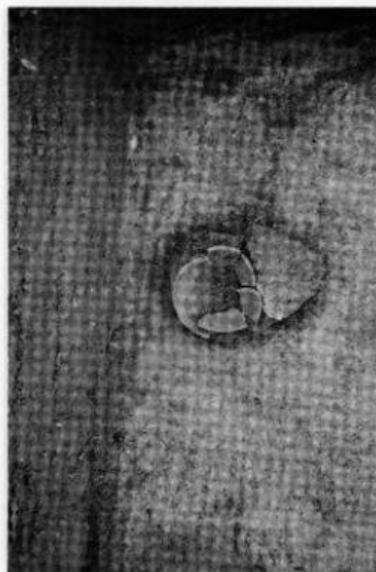
高、北尾地区一般農道整備事業・高、北尾地区遠景（東から）



高、北尾地区T13断面（北から）



高、北尾地区T3-1（北から）



高、北尾地区T3-1遺物出土状況

島、北尾地区 T11 掘削 (北西から)

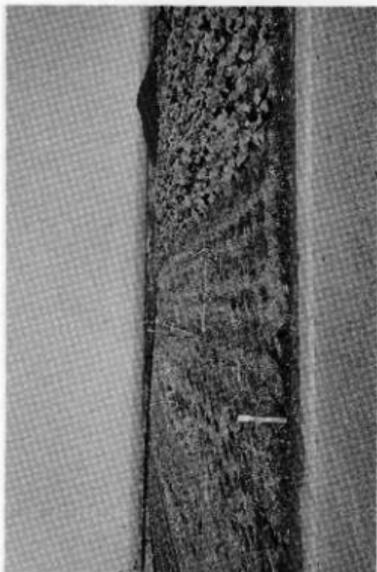


島、北尾地区 T11 (西から)



島、北尾地区 T12-2 (北西から)

島、北尾地区 T1-1 掘削 (南下から)



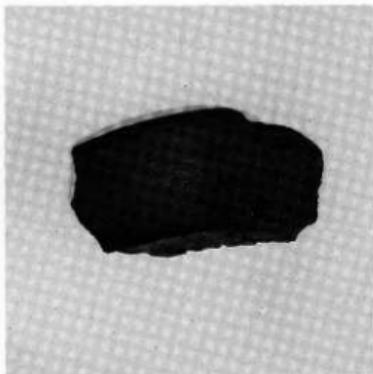
土下地区 T1 (南から)



土下地区 T1 (南から)



高、北尾地区 T 3 - 1 出土



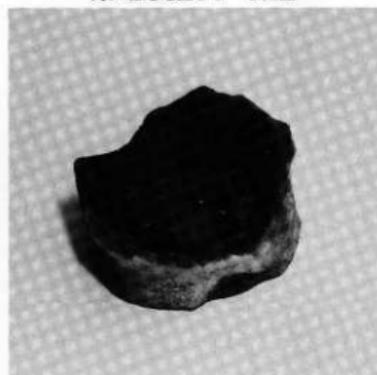
高、北尾地区 T 3 - 1 出土



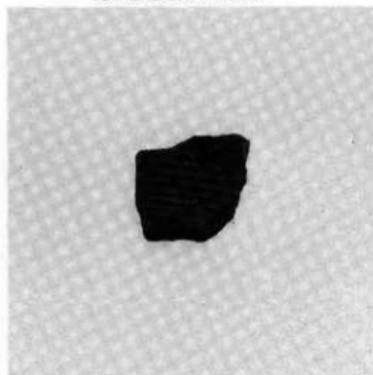
高、北尾地区 T 3 - 1 出土



高、北尾地区 T 11 出土



高、北尾地区 T 11 出土



土下地区 T 1 出土

平成9年3月印刷

平成9年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書21

## 町内遺跡発掘調査報告書第6集

編集 鳥取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 鳥取県東伯郡羽合町長瀬818-1

製本 勝美印刷株式会社